



「塾」も意義深い事業です。年次総会や各年次で行われる同期会、東京、関西をはじめとする各支部の会合も楽しく、有意義なものであると存じます。

で、近く刊行される予定です。どうぞご期待ください。現在の同窓会は、熱心な会員のボランティア精神に支えられています。感謝に

えましよう。松本深志高校という伝統ある名門校の卒業生は、経験豊かな知的リーダーとして各界で活躍しています。それだけに親睦と旧懐を越

ています。会員の皆さまの積極的な提案を待つ次第です。一方、深志同窓会の経常的な主財源は、実は母校新入生が入学時に支払う同窓会費によって賄われています。卒業生も会費を納める

同窓会への思いと提案

深志同窓会長 中嶋 嶺 雄

私が同窓会長をお引き受けしてから、間もなく二年半になります。創立百三十年記念事業の一環として立派な深志教育会館を建設するなど、同窓会の皆さまの強い連帯感と母校愛を感じつつ、責任の重さを痛感しております。

同窓会の皆さまが年次ごとに担当され、母校の生徒に先輩として仕事の様子や、人生経験を語る「尚学

同窓会をつなぐ絆の意味でも重要なのは、五年ごとに刊行してきた「同窓会名簿」です。いわゆる個人情報の問題などもクリアしつつ編集委員会が鋭意編纂中

堪えないところですが、問題の一つは若い卒業生の参加が極めて少ないことです。そのためもあって、とかく親睦中心の会合や活動に陥りがちだともい

えて、日常の同窓会活動がグローバル化時代の知的基盤社会(knowledge based society)にふさわしい地域活動や芸術活動の場であつてほしい、と私は考え

す。卒業生も会費を納めることによって、深志同窓会員としての自覚とアイデンティティーも強まるのではないでしようか。同窓会が抱える財政問題につきましてもぜひご意見を賜りたく思っております。

(国際教養大学理事長・学長 7 回卒)